

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-312802

(43)Date of publication of application : 09.11.2001

(51)Int.Cl.

G11B 5/024

(21)Application number : 2000-
126708(71)Applicant : INTERNATL BUSINESS
MACH CORP <IBM>

(22)Date of filing : 26.04.2000

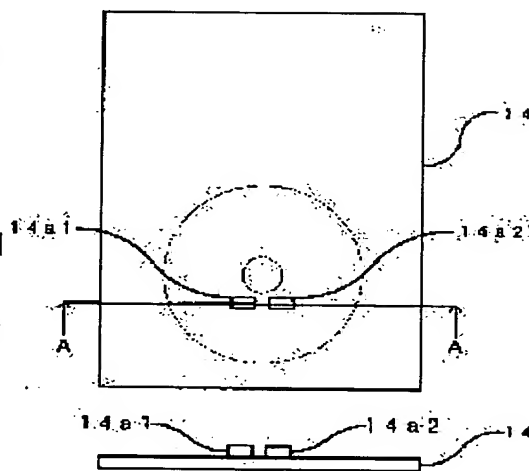
(72)Inventor : OTA MUTSURO
KUROKI KENJI
MATSUDA HIROSHI
TAKAHASHI HIROSHI
NOGUCHI SATOSHI
KITABORI HIRONORI
TAMURA HITOSHI

(54) DISK DEVICE AND DATA ERASING METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a disk device which can effectively erase data on a magnetic disk while suppressing the operation of a magnetic field on a spindle motor.

SOLUTION: The top cover 14 of the disk device is provided with pole pieces 14a1 and 14a2. When this disk device is placed in an external magnetic field, a magnetic field which is local and has a steeper magnetic gradient than the external magnetic field is produced from the pole pieces 14a1 and 14a2. When the pole pieces 14a1 and 14a2 are arranged on the inner peripheral side of the magnetic disk, data on the magnetic disk can effectively be erased while the operation of the magnetic field on the spindle motor is suppressed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision
of rejection][Kind of final disposal of application
other than the examiner's decision of
rejection or application converted
registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

閉じる

【発行国】日本国特許庁(JP)
 【公報種別】公開特許公報
 【公開番号】特開2001-312802(P2001-312802A)
 【公開日】平成13年11月9日(2001.11.9)
 【発明の名称】ディスク装置およびデータ《消去》方法
 【国際特許分類第7版】

IPC 識別 分冊

G11B 5/024 602

G11B 5/024 602

【FI】

FI 識別 分冊

G11B 5/024 602 Z

G11B 5/024 602 F

【審査請求】未請求

【請求項の数】18

【出願形態】OL

【全頁数】10

【出願番号】特願2000-126708(P2000-126708)

【出願日】平成12年4月26日(2000.4.26)

【出願人】

390009531

インターナショナル・ビジネス・マシーンス・コーポレーション

INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES

CORPORATION

アメリカ合衆国10504、ニューヨーク州 アーモンク(番地なし)

【発明者】

太田 睦郎;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【発明者】

黒木 賢二;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【発明者】

松田 浩;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【発明者】

高橋 啓史;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【発明者】

野口 智;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【発明者】

北堀 浩紀;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【発明者】

田村 仁;

神奈川県藤沢市桐原町1番地 日本アイ・ビー・エム株式会社 藤沢事業所内

【代理人】

100086243

【弁理士】

坂口 博(外3名)

【要約】

【課題】 スピンドルモータへの磁場の作用を抑えつつ、《磁気ディスク》のデータを有効に《消去》することのできるディスク装置を提供する。

【解決手段】 ディスク装置のトップカバー14に、ポールピース14a1、14a2を設ける。

このディスク装置を外部磁場中に置くと、ポールピース14a1、14a2から局部的で、かつ外部磁場よりも磁気勾配が急峻な磁場が形成される。

ポールピース14a1、14a2を《磁気ディスク》の内周側に配置すると、スピンドルモータへの磁場の作用を抑えつつ、《磁気ディスク》のデータを有効に《消去》することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 データを記憶するための《磁気ディスク》と、

前記《磁気ディスク》を収容する筐体と、

前記筐体に設けられ、外部磁場中に置いた場合に、局部的な磁場が発生する局部磁場発生部と、

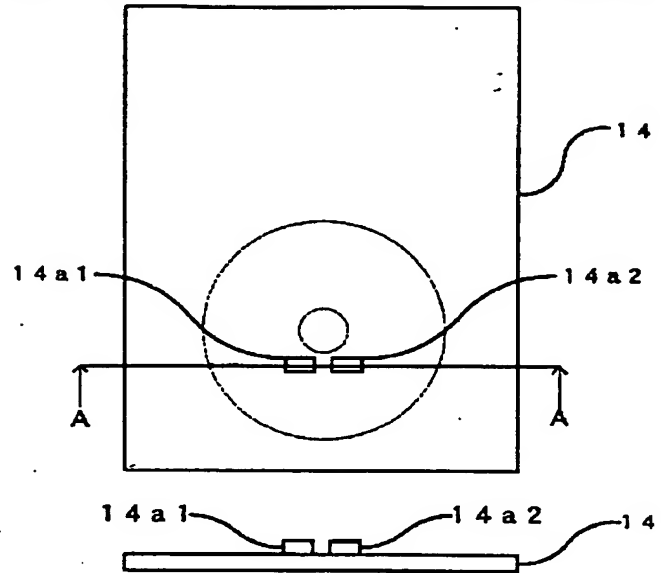
を備えたことを特徴とするディスク装置。

【請求項2】 前記局部磁場発生部は、前記《磁気ディスク》に対向する前記筐体の面に設けてあり、前記局部的な磁場は、前記筐体から前記《磁気ディスク》に向けて発生することを特徴とする請求項1に記載のディスク装置。

【請求項3】 前記局部的な磁場は、前記《磁気ディスク》が配置された領域において、前記《磁気ディスク》面と平行方向の成分が主であることを特徴とする請求項1に記載のディスク装置。

【請求項4】 磁性薄膜を表面に形成したディスク状記憶媒体と、前記ディスク状記憶媒体を覆い、かつ磁束発生の起点となるポールピースを形成したエンクロージャケースと、を備えたことを特徴とするディスク装置。

【請求項5】 前記ディスク装置を外部磁場中に置いた際に、前記ポールピースを起点とする磁束により、前記ディスク状記憶媒体に記憶されたデータを《消去》することを特徴とする請求項4に記載のディスク装置。



【請求項6】 データを記憶するための《磁気ディスク》と、

前記《磁気ディスク》を収容する筐体と、

前記《磁気ディスク》に対向する前記筐体の面に設けられ、前記《磁気ディスク》に向けて形成された軟磁性体からなる一対の突起と、

を備えたことを特徴とするディスク装置。

【請求項7】 前記一対の突起は、前記《磁気ディスク》の内周側に対応する位置に設けたことを特徴とする請求項6に記載のディスク装置。

【請求項8】 前記筐体は、開口部を有する箱状のベースと、前記ベースの開口部を覆うためのトップカバーとからなり、

前記一対の突起は前記トップカバーに設けたことを特徴とする請求項6に記載のディスク装置。

【請求項9】 前記一対の突起は、前記《磁気ディスク》の円周方向に所定の間隔を隔てて配置されていることを特徴とする請求項6に記載のディスク装置。

【請求項10】 データを記憶、読み出しするためのディスク装置であって、データを記憶するための《磁気ディスク》と、

前記《磁気ディスク》を収容する筐体とを備え、

前記《磁気ディスク》に対向する面の少なくとも一方の面が軟磁性体から構成され、

前記一方の面に磁気的な空隙が形成されていることを特徴とするディスク装置。

【請求項11】 前記磁気的な空隙は、前記軟磁性体から構成される前記筐体の面に形成された空孔であることを特徴とする請求項10に記載のディスク装置。

【請求項12】 前記《磁気ディスク》に向かって磁束を発生させる磁気回路が前記空孔の周囲に形成されていることを特徴とする請求項10に記載のディスク装置。

【請求項13】 前記磁気回路は、前記筐体と一体的に形成されたことを特徴とする請求項12に記載のディスク装置。

【請求項14】 所定の保磁力を備え、かつデータを記憶する磁性薄膜を表面に形成したディスク状記憶媒体と、

前記ディスク状記憶媒体を収納するエンクロージャケースと、

前記エンクロージャケースの前記ディスク状記憶媒体の対向面に設けられ、外部磁場中に置いた際に、前記外部磁場よりも磁気勾配の急峻な磁場を形成することのできる磁場形成部と、

を備えたことを特徴とするディスク装置。

【請求項15】 前記磁場形成部により形成される前記磁場の強さが、前記ディスク状記憶媒体の前記所定の保磁力よりも強いことを特徴とする請求項14に記載のディスク装置。

【請求項16】 データを記憶、読み出しするためのディスク装置であって、

データを記憶するための《磁気ディスク》と、

前記《磁気ディスク》を収容する筐体とを備え、

前記《磁気ディスク》に対向する前記筐体の面の少なくとも一方の面が軟磁性体から構成され、かつ前記一方の面に前記《磁気ディスク》に向けた突起が形成されていることを特徴とするディスク装置。

【請求項17】 前記ディスク装置を外部磁場中に置いた場合に、前記突起からの漏洩磁束は、前記一方の面の他の部分からの漏洩磁束よりも遠くまで到達することを特徴とする請求項16に記載のディスク装置。

【請求項18】 ディスク装置内の《磁気ディスク》に記憶されたデータを《消去》するデータ方法であって、

外部磁場を発生させるステップと、

前記ディスク装置を前記外部磁場内に挿入するステップと、

前記ディスク装置内において前記外部磁場よりも磁気勾配の急峻な磁場を発生させることにより、前記《磁気ディスク》に記憶されたデータを《消去》するステップと、

を備えたことを特徴とするデータ《消去》方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ディスク装置において《磁気ディスク》に記憶された、例えばサーボ・データを《消去》するのに適した構造を有するディスク装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 典型的なディスク装置は、《磁気ディスク》と、《磁気ディスク》を回転駆動するためのスピンドルモータと、《磁気ディスク》に対してデータの記憶、読み出しを実行するための磁気ヘッド等を備える。

ディスク装置は、《磁気ディスク》、スピンドルモータおよび磁気ヘッド等を収容するためのエンクロージャケースと呼ばれる筐体備えている。

《磁気ディスク》は、ガラスあるいはAl等の非磁性体からなる基板表面に磁性薄膜からなるデータ記憶層を例えばスパッタリングにより形成している。

エンクロージャケースは、一般に、開口部を有する箱型のベースと、ベースの開口部を覆う板状のトップカバーとから構成される。

したがって、エンクロージャケース内は気密性が保たれている。

【0003】 ディスク装置は、《磁気ディスク》、スピンドルモータその他の構成部品をベース内に組み付けた後に、トップカバーでベースの開口部を覆って組み付けが終了する。

組み付けが終了した後に、《磁気ディスク》に《磁気ディスク》の位置データ等であるサーボ・データを書き込む。

サーボ・データを書き込みが終了したディスク装置は、製品出荷のための種々のテストに供される。

このテストで不良品と認定されるディスク装置もある。

不良品と認定されたディスク装置は、不良に関係ない部品についてはディスク装置を解体した後に回収して、再利用される。

《磁気ディスク》を再利用する場合には、新たな製品として書き込まれるサーボ・データとの干渉を防止するために、既に書き込まれたサーボ・データを《消去》する必要がある。

また、サーボ・データを書き込み自体が不良と認定された場合にも、サーボ・データの《消去》が必要となる。

さらに、製品出荷のためのテストにおいてもテスト・データが書き込まれており、不良品となったディスク装置については、そのテスト・データの《消去》も必要となる。

【0004】 《磁気ディスク》のデータ《消去》に関して特開平7-29106号公報が有効な手法を提案している。

特開平7-29106号公報は、《永久磁石》を配置した棒を回転する《磁気ディスク》間に挿入することにより《磁気ディスク》に記憶されているデータを《消去》しようというものである。

特開平7-29106号公報の手法は有効な手法ではあるが、《磁気ディスク》間に《永久磁石》を配置した棒を挿入することが前提となっている。

したがって、《磁気ディスク》がディスク装置に装着された状態では《磁気ディスク》のデータを《消去》することができない。

《磁気ディスク》のデータ《消去》は、ディスク装置から《磁気ディスク》を取り外した後に行う場合もあるが、例えば、サーボ・データを書き込み不良の場合には、《磁気ディスク》がディスク装置に装着された状態でデータ《消去》すれば足りる。

このような要求に前記特開平7-29106号公報のデータ《消去》方法は対応することができない。

【0005】《磁気ディスク》がディスク装置に装着された状態でもデータ《消去》が可能な装置が国際公開WO98/49674号公報に開示されている。

この装置を図8～図10に基づき説明する。

図8に示すように、データ消去装置400は、上部磁石固定部402、下部磁石固定部404および接合部406とから構成される。

上部磁石固定部402は《永久磁石》412および414を固定し、下部磁石固定部404は《永久磁石》416および418を固定する。

《永久磁石》412および414は、互いに吸着し合う極性となるように隣接配置されている。

また、《永久磁石》416および418も、互いに吸着し合う極性となるように隣接配置されている。

《永久磁石》412と416は鉛直方向に対向しているが、《永久磁石》412の対向面と《永久磁石》416の対向面とは互いに異なる極性を示している。

また、《永久磁石》414と418も鉛直方向に対向しているが、《永久磁石》414の対向面と《永久磁石》418の対向面とは互いに異なる極性を示している。

【0006】図9は図8に示すデータ消去装置400によって形成される磁場を模式的に示している。

図9に示すように、データ消去装置400のほぼ中央部において水平方向の磁場が生じることがわかる。

なお、現行の《磁気ディスク》は水平磁気記録方式を採用していることから、《磁気ディスク》に記憶されているデータを《消去》するためには、《磁気ディスク》と平行な方向の磁場を作用させる必要がある。

また、磁場の強度は、《磁気ディスク》の保磁力よりも大きいことが必要である。

図10はデータ消去装置400を用いて磁気ディスク22に記憶されたデータを消去する方法を示す図である。

なお、図10はディスク装置内部の動きがわかるように、トップカバーを外した状態を示している。

はじめに、《磁気ディスク》22を回転させる。

この《磁気ディスク》22の回転は、ディスク装置10に備えてあるスピンドルモータを駆動することにより実行する。

次に、ディスク装置10をデータ《消去》装置400の上部磁石固定部402および下部磁石固定部404との間隙に挿入する。

このとき、データ《消去》装置400による磁場の影響が及ばないようにするために、ヘッドスライダSが存在しない側を上部磁石固定部402および下部磁石固定部404との間隙に挿入するとともに、図中矢印で示すようにヘッドスライダSを回避させる。

この状態で《磁気ディスク》22の回転を継続すれば、《磁気ディスク》22の全面に平行な磁場が作用することによりデータの《消去》が行われる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】《磁気ディスク》に記憶されたデータを《消去》するためには、《磁気ディスク》の保磁力以上の磁場を《磁気ディスク》に作用させる必要がある。

近時、《磁気ディスク》の記録密度の向上は著しく、それに伴って《磁気ディスク》の保磁力も増大している。

したがって、《磁気ディスク》に記憶されたデータを《消去》するためにはそれに応じた強度の磁場が必要となる。

【0008】《磁気ディスク》のデータ《消去》は、《磁気ディスク》をディスク装置から取り外して行う場合もあるが、前述のようにディスク装置に収容された状態で行なう場合もある。

ディスク装置には、《磁気ディスク》を回転させるためのスピンドルモータが設けてあり、このスピンドルモータには《永久磁石》が構成部品として用いられている。

スピンドルモータは《磁気ディスク》の回転中心に配置されている。

したがって、《磁気ディスク》のデータ《消去》のために強い磁場を作用させると、その磁場はスピンドルモータを構成する《永久磁石》の減磁場となり、スピンドルモータの特性劣化の要因となる。

《磁気ディスク》の保磁力向上に対しては、より強い磁場を《磁気ディスク》に対して作用させればよいが、これは、スピンドルモータの特性劣化を助長する。

【0009】従来、《磁気ディスク》のデータ《消去》に関しては、データ《消去》装置側に改良を加えることに着目されてきた。

本発明は視点を変えて、ディスク装置の構造に改良を加えることにより、スピンドルモータへの磁場の作用を抑えつつ、《磁気ディスク》のデータを有効に《消去》することのできるディスク装置およびデータ《消去》方法を提供しようというものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明者は、ディスク装置を構成する筐体から《磁気ディスク》に向けて効率的に磁束を飛ばすことができる磁気回路を前記筐体に設けることに着目した。

つまり、このような磁気回路を設けると、ディスク装置を外部磁場中に置いた場合に、他の筐体部分とは異なる磁場、つまり局部的な磁場が当該磁気回路から発生し、《磁気ディスク》のデータ《消去》に有効に機能することができるのである。

特に、外部磁場が弱い場合でも、局部的な磁場が発生するために、スピンドルモータに用いられている《永久磁石》の減磁を最小限に抑えつつ、《磁気ディスク》のデータ《消去》を効果的に行うことができる。

本発明は以上のような知見に基づきなされたものであり、データを記憶するための《磁気ディスク》と、前記《磁気ディスク》を収容する筐体と、前記筐体に設けられ、外部磁場中に置いた場合に、局部的な磁場が発生する局部磁場発生部と、を備えたことを特徴とするディスク装置である。

本発明の局部的な磁場発生部は、前記筐体が軟磁性体から構成されている場合でも、非磁性材料で構成されている場合であっても設けることができる。

【0011】本発明のディスク装置において、局部磁場発生部から発生される局部的な磁場は、前記筐体からその内部に向けて発生する。

そして、局部磁場発生部が、前記《磁気ディスク》に対向する前記筐体の面に設けてあれば、局部的な磁場は、《磁気ディスク》に到達して記憶されているデータの《消去》に有効に寄与する。

なお、局部磁場発生部から発生する局部的な磁場は、前記《磁気ディスク》が配置された領域において、前記《磁気ディスク》と平行方向の成分が主であることが望ましい。

《磁気ディスク》に記憶されているデータを《消去》するためには、《磁気ディスク》と平行な方向の磁場が必要だからである。

【0012】ディスク装置の筐体内部に局部的な磁場を発生させるためには、筐体にポールピースを設ければよい。

つまり、本発明によれば、磁性薄膜を表面に形成したディスク状記憶媒体と、前記ディスク状記憶媒体を覆い、かつ磁束を発生することのできるポールピースを形成したエンクロージャケースと、を備えたことを特徴とするディスク装置が提供される。

このディスク装置を外部磁場中に置くと、このポールピースを起点として磁束が発生し、磁場を形成する。

このポールピースを起点とする磁束は、前記外部磁場自身による磁束とは異なる挙動を示す。

エンクロージャケースの内周面、かつ《磁気ディスク》に対向する面にポールピースを設けると、ポールピースから発生し

た磁束は前記外部磁場による磁束よりも遠くまで到達することができる。

つまり、外部磁場による磁束が《磁気ディスク》に到達しない場合であっても、ポールピースから発生した磁束は、《磁気ディスク》に到達することができ、《磁気ディスク》に記憶されたデータの《消去》が実行される。

このことは、《磁気ディスク》のデータ《消去》を、スピンドルモータを構成する《永久磁石》の減磁を抑制しつつ実行できることを示している。

【0013】前記ポールピースは軟磁性体から構成される。

そして、一のポールピースから発生した磁束は他のポールピースに戻るという磁気回路を構成する。

この磁気回路は、ディスク装置を構成する筐体に、軟磁性体からなる一対の突起を設けることにより構成することができる。

つまり本発明のディスク装置は、データを記憶するための《磁気ディスク》と、前記《磁気ディスク》を収容する筐体と、前記《磁気ディスク》に対向する前記筐体の面に設けられ、前記《磁気ディスク》に向けて形成された軟磁性体からなる一対の突起と、を備えたことを特徴とする。

このディスク装置を外部磁場中に置くと、軟磁性体からなる一対の突起がポールピースとして機能することになる。

つまり、軟磁性体からなる一方の突起から漏洩した磁束は、他方の突起に戻るという磁気回路を構成する。

この磁気回路による磁場は、外部磁場そのものとは異なる局所的な磁場である。

ディスク装置のスピンドルモータは、《磁気ディスク》を回転させるためのものであるから、《磁気ディスク》の中心に配置される。

したがって、スピンドルモータの構成部品である《永久磁石》も《磁気ディスク》の中心近傍に存在することになる。

スピンドルモータの《永久磁石》が、《磁気ディスク》の記憶データ《消去》時に減磁されるべきでないことは前述のとおりであるが、スピンドルモータ用《永久磁石》の減磁を防ぐには、データ《消去》のためにディスク装置に及ぼす磁場を弱くする必要がある。

その場合、《磁気ディスク》内周側のデータは《消去》されにくい。

したがって、本発明のディスク装置では、前記一対の突起を、前記《磁気ディスク》の内周側に対向する位置に設けることが望ましい。

【0014】ディスク装置の筐体は、エンクロージャケースと呼ばれる。

このエンクロージャケースは、開口部を有する箱状のベースと、前記ベースの開口部を覆うためのトップカバーとから構成される。

本発明の軟磁性体からなる一対の突起は前記トップカバーに設けることが望ましい。

ベースにはディスク装置の種々の構成部品を取り付ける必要があり、本発明の一対の突起を設ける余地が少ないからである。

また、ベースの《磁気ディスク》対向面と《磁気ディスク》面との距離が、トップカバーと《磁気ディスク》対向面と《磁気ディスク》面との間隔よりも広く、磁場を作用させる場合に不利だからである。

本発明の一対の突起は、《磁気ディスク》の円周方向に所定の間隔を隔てて配置される。

前述のデータ《消去》装置400を用いて《磁気ディスク》のデータを《消去》する場合、《磁気ディスク》面に平行に、かつ《磁気ディスク》の接線方向に向く外部磁場が作用する。

この場合、一対の突起を径方向に所定間隔隔てて配置しても本発明でいうところの局所的な磁場を形成することができない。

《磁気ディスク》の円周方向に所定の間隔を隔てて配置すれば、データ《消去》に有効な局所的な磁場を形成することができる。

なお、本発明のディスク装置において、一対の突起のみを設けてもよいが、複数対設けることもできる。

また、突起の寸法、形状は《磁気ディスク》の寸法、枚数等に応じて適宜設定すればよい。

さらに、突起を構成する軟磁性体の具体的な材質は本発明で限定するものではないが、ディスク装置として耐食性も要求されることから、SUS430等のステンレス鋼を用いることが望ましい。

【0015】本発明は、ディスク装置の筐体から局所的な磁場を生じさせる点に特徴があり、その例として軟磁性体からなる一対の突起を示した。

ところで、磁場中に置かれた軟磁性体に磁気的な空隙がある場合には、その空隙から漏洩磁束が発生する。

よって、筐体を軟磁性体で構成し、かつ磁気的な空隙を部分的に形成することにより、そこから漏洩磁束を発生、つまり局所的な磁場を形成させることも有効である。

したがって本発明は、データを記憶、読み出しするためのディスク装置であって、データを記憶するための《磁気ディスク》と、前記《磁気ディスク》を収容する筐体とを備え、前記《磁気ディスク》に対向する面の少なくとも一方の面が軟磁性体から構成され、前記一方の面に磁気的な空隙が形成されていることを特徴とするディスク装置が提供される。

磁気的な空隙の最も典型的な例としては、前記軟磁性体から構成される前記筐体の面に形成された空孔があり、この空孔の周囲から、磁束が漏洩する。

この漏洩磁束を《磁気ディスク》に向けさせるための磁気回路を、前記空孔の周囲に設けることがより望ましい。

磁気的な空隙である空孔をエンクロージャケースのトップカバーに設ける場合には、軟磁性体からなるトップカバーを打ち抜きにより形成することができる。

この際、前記磁気回路を一体的に形成することもでき、製造工程上有利となる。

なお、軟磁性体としては、前述のSUS430等のステンレス鋼を用いることが望ましい。

【0016】以上の軟磁性体からなる一対の突起、あるいは磁気的な空隙により形成される磁場は、データ《消去》のための外部磁場よりも磁気勾配を急峻とすることができる。

したがって、本発明によれば、所定の保磁力を備え、かつデータを記憶する磁性薄膜を表面に形成したディスク状記憶媒体と、前記ディスク状記憶媒体を収納するエンクロージャケースと、前記エンクロージャケースの前記ディスク状記憶媒体の対向面に設けられ、外部磁場中に置いた際に、前記外部磁場よりも磁気勾配の急峻な磁場を形成することのできる磁場形成部と、を備えたことを特徴とするディスク装置が提供される。

ここで、前記磁場形成部により形成される磁場は、《磁気ディスク》のデータを《消去》するために、《磁気ディスク》の保磁力よりも強いことが要求される。

【0017】本発明では、データを記憶、読み出しするためのディスク装置であって、データを記憶するための《磁気ディスク》と、前記《磁気ディスク》を収容する筐体とを備え、前記《磁気ディスク》に対向する前記筐体の面の少なくとも一方の面が軟磁性体から構成され、かつ前記一方の面に前記《磁気ディスク》に向けた突起が形成されていることを特徴とするディスク装置によっても、本発明の課題を解決することができる。

この《磁気ディスク》装置では、外部磁場中に置いた場合に、前記突起からの漏洩磁束が他の部分よりも遠くまで到達することができる。

したがって、例えば、データ《消去》しにくかった《磁気ディスク》の内周側に、前記突起を形成すれば、データ《消去》のしにくさを解消することができる。

【0018】以上の本発明ディスク装置に対して前述したデータ《消去》装置によりデータ《消去》を行くと、以下の新規なデ

一タ《消去》方法が実行されることになる。

すなわち、本発明のデータ《消去》方法は、ディスク装置内の《磁気ディスク》に記憶されたデータを《消去》するデータ方法であって、外部磁場を発生させるステップと、前記ディスク装置を前記外部磁場内に挿入するステップと、前記ディスク装置内において、前記外部磁場よりも磁気勾配の急峻な磁場を発生させることにより前記《磁気ディスク》に記憶されたデータを《消去》するステップと、を備えたことを特徴とするデータ《消去》方法である。

【0019】

【発明の実施の形態】以下本発明を実施の形態に基づき説明する。

（第1の実施形態）図1は本発明の実施形態にかかるディスク装置を示す分解斜視図である。

図1に示すように、ディスク装置10では、底浅箱型のアルミニウム合金製のベース12の開口部がトップカバー14で閉成されて筐体、つまりエンクロージャケース16をなす。

このエンクロージャケース16は、矩形な薄箱状とされておりコンピュータ内またはキーボード内に水平に配置可能である。

SUS430製のトップカバー14はベース12に矩形枠状のシール部材（図示せず）を介して、ビス止めされて、エンクロージャケース16内が気密化されている。

このエンクロージャケース16内には、ベース12の中央からやや端寄りにハブイン構造のスピンドルモータ18が設けられている。

このスピンドルモータ18のハブ20の上面には、ガラス基板からなる《磁気ディスク》22がトップクランプ28で固定装着され、スピンドルモータ18で回転駆動される。

このスピンドルモータ18は、その構成部品として図示しない《永久磁石》が組み込まれている。

《磁気ディスク》22は、データを記憶、または読み出すディスク状の記憶媒体である。

データの記憶は、ガラス基板上に形成された磁性薄膜（図示せず）になされる。

また、エンクロージャケース16内には、アクチュエータ30が設けられている。

このアクチュエータ30は一端部に磁気ヘッド32を有し、中間部がピボット34を介してベース12上に支持され、ピボット34回りに回転自在とされる。

アクチュエータ30の他端部にはVCM（ボイスコイルモータ）用コイル36が設けられ、このVCM用コイル36と共働すべくエンクロージャケース16内に設けられるVCM44によって、アクチュエータ30が回動される。

ベース12外面（下面）には、回路基板としての図示しないカードが取り付けられ、このカードはベース12の外面を覆うような大きさの矩形とされる。

前記カードと上記スピンドルモータ18の間ではモータ駆動用の電力、信号等の入出力が行われ、カードとアクチュエータ30の間ではVCM用コイル36への動力や磁気ヘッド32の読み取り等のための電力、信号の入出力が行われる。

このカードとアクチュエータ30との間では、フレキシブルケーブル（FPC）38を介して行われる。

本実施の形態のディスク装置10は、ヘッド・ロード・アンロード型と称されるディスク装置である。

このヘッド・ロード・アンロード型ディスク装置は非動作時にランプ・ブロック40にアクチュエータ30を保持させることにより、磁気ヘッド32を《磁気ディスク》22表面に接触させずに退避位置にアンロードするものである。

動作時にはアクチュエータ30が駆動することにより磁気ヘッド32は《磁気ディスク》22上に位置することとなる。

【0020】図2は、トップカバー14の磁気ディスク22との対向面（裏面）概要を示す平面図、およびこの平面図のA-A断面図を示している。

図2に示すように、トップカバー14の裏面には、一対の突起14a1、14a2が設けられている。

この一対の突起14a1、14a2は、トップカバー14と同様のSUS430から構成されている。

また、図2の平面図に磁気ディスク22の配置位置を点線で示しているが、一対の突起14a1、14a2は、磁気ディスク22の内周側に配置されていることがわかる。

なお、一対の突起14a1、14a2は、トップカバー14と別体として作成し、所定位置に接着剤により貼り付けることにより形成しているが、トップカバー14と一体的に形成してもよい。

【0021】本実施の形態において《磁気ディスク》22に記憶されたデータ、例えば《磁気ディスク》22の位置情報であるサーボ・データを《消去》するためには、図8～図10に基づいて既に説明したデータ消去装置400を用いることができる。

図3は、ディスク装置10を図10(B)に示すようにデータ消去装置400に挿入した際に形成される磁場を説明するための図である。

データ《消去》装置400の《永久磁石》412および414は図3に示す極性をなしていることから、永久磁石412から漏洩した磁束F1は永久磁石414に戻るというループを形成する。

この漏洩磁束F1により形成された磁場が、データ《消去》の対象となるディスク装置10にとっての外部磁場となる。

つまり、図3はディスク装置10が外部磁場に置かれた場合の、磁気的な作用を示す断面図である。

【0022】ディスク装置10のトップカバー14は軟磁性体であるSUS430で構成されているから、図3に示すように、漏洩磁束F1は空間よりも磁束の流れやすいトップカバー14を通る。

もっとも、SUS430は磁束密度が高い部類に属するものではないため、《永久磁石》412および414の磁気特性が高ければ、《永久磁石》412および414からの磁束はトップカバー14から漏洩する。

ただし、図3にはこの漏洩磁束の記載は省略してある。

一対の突起14a1、14a2について見てみると、以下の通りである。

つまり、一対の突起14a1、14a2は外部磁場により磁化されてポールピースとして機能することになる。

したがって、図3に示すように突起14a1から突起14a2に向けて磁束F2が生じる。

なお、磁束F2についても、代表的なもののみ図示している。

この磁束F2は、一対の突起14a1、14a2を設けていない部分に対して局所的な磁場を形成する。

この磁束F2の性状は、一対の突起14a1および14a2間のギャップGに影響される。

磁束F2を遠くまで飛ばすためには、ギャップGを広くする必要がある。

しかしこの場合、磁束F2による磁場は磁気的な勾配が緩やかになる。

逆に、ギャップGが狭い場合には、磁束F2による磁場は磁気的な勾配が急峻となる。

つまり、ギャップGが狭い場合にはそれが広い場合に比べて、距離が離れるに従い磁場強度が低くなることを意味する。

本発明においては、《磁気ディスク》22、特にその内周側には強い磁場を作用させたいが、スピンドルモータ18の構成部品である《永久磁石》には磁場を作用させたくないという要求がある。

《磁気ディスク》22とスピンドルモータ18の《永久磁石》とは近接しているため、《磁気ディスク》22に作用させる磁場としては急峻であることが望ましい。

したがって、一対の突起14a1、14a2を設ける場合には、これらの点を考慮してそのギャップGを定めることが望ましい。

もっとも、一対の突起14a1、14a2により形成される磁場が外部磁場と同等の磁気勾配である場合には、一対の突起14a1、14a2を設けることによる利益が少ないから、一対の突起14a1、14a2により形成される磁場は外部磁場よりも磁気勾配を急峻とすべきである。

また、一対の突起14a1、14a2により形成される磁場は、《磁気ディスク》22を含む領域において、《磁気ディスク》22面と平行方向の成分が主体となるようにする。

前述のように、《磁気ディスク》22に記憶されているデータを《消去》するためには、《磁気ディスク》22面と平行方向の磁場を《磁気ディスク》22に作用させる必要があるからである。

さらに、《磁気ディスク》22に作用させる磁場の強度は、前述のように、《磁気ディスク》22に形成された磁性薄膜の保磁力以上の強さを持つ必要がある。

【0023】以上説明した本発明の第1の実施形態によれば、軟磁性体からなる一対の突起14a1、14a2は、ディスク装置10を外部磁場中に置いたときに、ポールピースとして機能し、《磁気ディスク》22に対して局部的かつ磁気勾配が急峻な磁場を形成することができる。

したがって、外部磁場の強度を弱くしたとしても、《磁気ディスク》22に対して磁束を効率的に収束することができる。これによりスピンドルモータ18の《永久磁石》の減磁を抑制しつつ、データの《消去》を実行することができる。

なお、トップカバー14を軟磁性体であるSUS430で構成したが、本第1の実施形態はトップカバー14が非軟磁性体であっても機能する。

また、軟磁性体からなる一対の突起14a1、14a2をトップカバー14に設けたが、ベース12に設けてもよいし、トップカバー14およびベース12の両者に設けることもできる。

さらに、一対の突起14a1、14a2を《磁気ディスク》22の内周側に対向する位置に設けたが、他の位置に設けることもできる。

つまり、以上の第1の実施形態は、本発明を実施する上で望ましい形態ではあるが、本発明を限定する根拠となるものではない。

【0024】(第2の実施形態)次に本発明の第2の実施形態を図4および図5に基づいて説明する。

なお、第2の実施形態のディスク装置10は、トップカバー140の形態が異なる点を除く基本的な構成は第1の実施形態と同様であり、したがって、ここではトップカバー140を中心に説明する。

図4は、トップカバー140の磁気ディスク22との対向面(裏面)概要を示す平面図、およびこの平面図のB-B断面図を示している。

図4に示すように、トップカバー140の裏面には、一対の突起140a1および140a2が設けてある。

この一対の突起140a1および140a2は、トップカバー140に一体的に形成されている。

このトップカバー140はSUS430から構成されているから、一対の突起140a1および140a2は軟磁性体から構成されることになる。

一対の突起140a1および140a2は、《磁気ディスク》22に向けて形成されており、この間には空孔140hが設けてある。

この空孔140hは軟磁性体であるトップカバー140において、磁気的な空隙となる。

したがって、トップカバー140を磁場中に置いた場合には、空孔140hから外部に磁束が漏洩することになる。

本第2の実施形態は、この漏洩磁束により形成される磁場を《磁気ディスク》22のデータ《消去》に用いようというものである。

ただし、《磁気ディスク》22の必要な個所に効率よく磁束を飛ばすために、一対の突起140a1および140a2を設けている。

第2の実施形態は、トップカバー140を軟磁性体で構成したことを前提としており、一対の突起140a1、140a2をトップカバー140と一体的に形成した点に特徴がある。

従来の多くのトップカバーはプレス成形により作成されていた。

第2の実施形態のトップカバー140も、一対の突起140a1、140a2および空孔140hを形成し得る所定の金型を用いることによりプレス成形により作成することができる。

第1の実施形態のように一対の突起14a1、14a2を別体として作成し、所定位置に接着剤により貼り付ける場合に比べて、製造が容易となる利点がある。

【0025】第2の実施形態において、《磁気ディスク》22に記憶されたデータ、例えば《磁気ディスク》22の位置情報であるサーボ・データを《消去》するためには、第1の実施形態と同様、図8～図10に基づいて既に説明したデータ消去装置400を用いることができる。

図5は、ディスク装置10を図10(B)に示すようにデータ消去装置400に挿入した際に形成される磁場を説明するための図である。

データ《消去》装置400の《永久磁石》412および414は図5に示す極性をなしていることから、永久磁石412から漏洩した磁束F10は永久磁石414に戻るというループを形成する。

この漏洩磁束F10により形成された磁場が、データ《消去》の対象となるディスク装置10にとっての外部磁場となる。

図5に示すように、外部磁場に曝されたトップカバー140の突起140a1からは磁束F20が漏洩する。

この漏洩磁束F20は《磁気ディスク》22を貫通して突起140a2に戻る。

つまり、一対の突起140a1および140a2は、空孔140hの周囲において、《磁気ディスク》22に向かって磁束F20を発生させる磁気回路を構成している。

磁束F20により形成された磁場も、トップカバー140の他の部分と比較して局部的に形成された磁場ということができる。

また、スピンドルモータ18の《永久磁石》への減磁作用を低減するために、外部磁場よりも磁気勾配が急峻となるように、突起140a1および140a2の間隔を設定することが望ましい。

【0026】第2の実施形態ではトップカバー140をSUS430で構成したが、本発明はこれに限定されず、軟磁性体であればどのような材質であっても本発明の効果をj得ることができる。

ただし、耐食性の劣る例えば純鉄を用いたような場合には、耐食性を確保するためにNiメッキ等の防食処理が必要となる。

したがって、第2の実施形態で用いたSUS430のように耐食性を備えた軟磁性体を用いることが望ましい。

また、第2の実施形態ではトップカバー140に空孔140hを形成して漏洩磁束F20を生じさせた。

この空孔140hを非磁性体からなるシート材をトップカバー140に貼り付けることによって封止することが望ましい。

エンクロージャケース16内の気密性を確保するためである。

シート材を貼り付ける代わりに、非磁性体からなる充填物を空孔140hに充填させてもよい。

この場合でも、空孔140hが磁気的な空隙であることは言うまでもない。

【0027】(第3の実施形態)次に本発明の第3の実施形態を図6および図7に基づいて説明する。

なお、第3の実施形態のディスク装置10は、トップカバー240の形態が異なる点を除く基本的な構成は第1の実施形態と同様であり、したがって、ここではトップカバー240を中心に説明する。

図6は、トップカバー240の磁気ディスク22との対向面(裏面)概要を示す平面図、およびこの平面図のC-C断面図を示している。

図6に示すように、トップカバー240の裏面には、突部240bが設けてある。

この突部240bは、SUS430からなるトップカバー240に一体的に形成されており、その裏側はへこんでいる。

突部240bを形成したトップカバー240も、第2の実施形態と同様に、所定の金型を用いたプレス成形により得ることができる。

【0028】第3の実施形態において、《磁気ディスク》22に記憶されたデータ、例えば《磁気ディスク》22の位置情報であるサーボデータを《消去》するためには、第1の実施形態と同様、図8～図10に基づいて既に説明したデータ消去装置400を用いることができる。

図7は、第3の実施形態にかかるディスク装置10を図10(B)に示すようにデータ消去装置400に挿入した際に形成される磁場を説明するための図である。

第3の実施形態では、データ《消去》装置400の《永久磁石》412および414は、トップカバー240の突部240bの裏側のへこみ対応した形状の部分有している。

データ《消去》装置400の《永久磁石》412および414は図7に示す極性をなしていることから、永久磁石412から漏洩した磁束F100は基本的に永久磁石414に戻るというループを形成する。

ただし、突部240bから漏洩する磁束F200と他の部分から漏洩する磁束F100とは異なる。

つまり、突部240bから漏洩する磁束F200は他の部分から漏洩する磁束F100よりも、遠くまで到達することができる。また、磁束F200によって形成される磁場は、他の部分からの漏洩磁束F100で形成される磁場に対して局部的であり、かつ磁気勾配が急峻である。

この磁場が《磁気ディスク》22に作用することにより、《磁気ディスク》22に記憶されたデータを《消去》することができる。

【0029】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のディスク装置によれば、スピンドルモータへの磁場の作用を抑えつつ、《磁気ディスク》のデータを有効に《消去》することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1の実施形態にかかるディスク装置を示す分解斜視図である。

【図2】 第1の実施形態で用いたトップカバー14を示す図である。

【図3】 第1の実施形態におけるデータ《消去》のための磁場を説明するための図である。

【図4】 第2の実施形態で用いたトップカバー140を示す図である。

【図5】 第2の実施形態におけるデータ《消去》のための磁場を説明するための図である。

【図6】 第3の実施形態で用いたトップカバー240を示す図である。

【図7】 第3の実施形態におけるデータ《消去》のための磁場を説明するための図である。

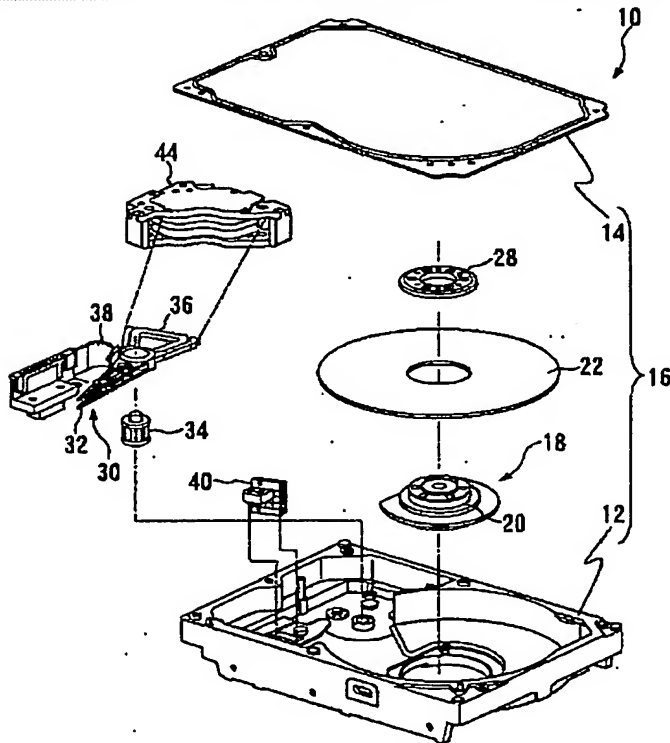
【図8】 国際公開WO98/49674号公報に開示されたデータ《消去》装置を示す図である。

【図9】 国際公開WO98/49674号公報に開示されたデータ《消去》装置により形成される磁場を説明するための図である。

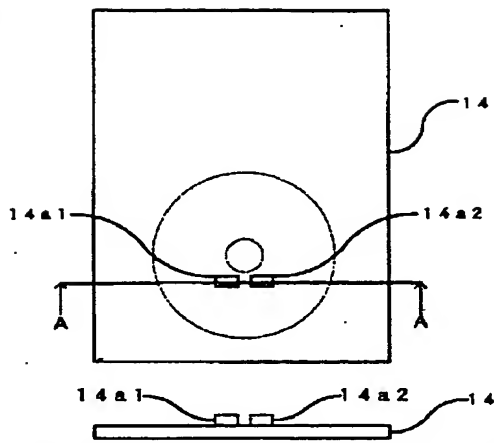
【図10】 国際公開WO98/49674号公報に開示されたデータ《消去》装置を用いたデータ《消去》方法を説明するための図である。

【符号の説明】 10…ディスク装置、12…ベース、14…トップカバー、14a1、14a2…突起、16…エンクロージャケース、18…スピンドルモータ、20…ハブ、22…《磁気ディスク》、28…トップクランプ、30…アクチュエータ、32…磁気ヘッド、34…ピボット、36…VCM(ボイスコイルモータ)用コイル、38…フレキシブルケーブル(FPC)、40…ランプ・ブロック、44…VCM、140…トップカバー、140a1、140a2…突起、240…トップカバー、240b…突部

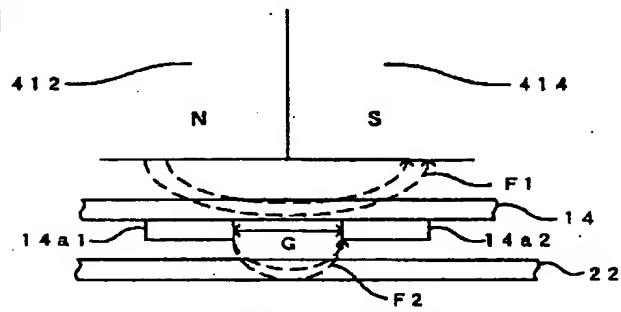
【図1】



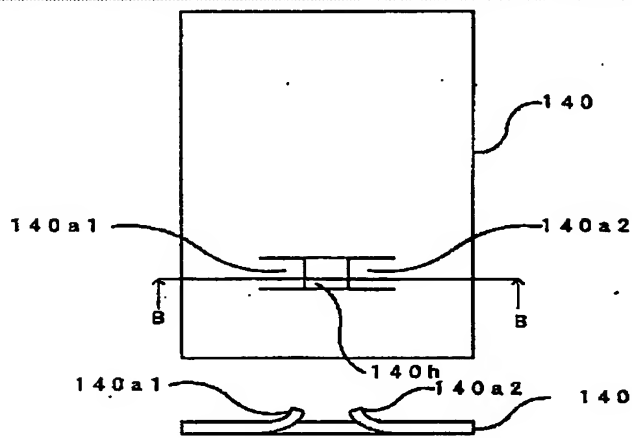
【図2】



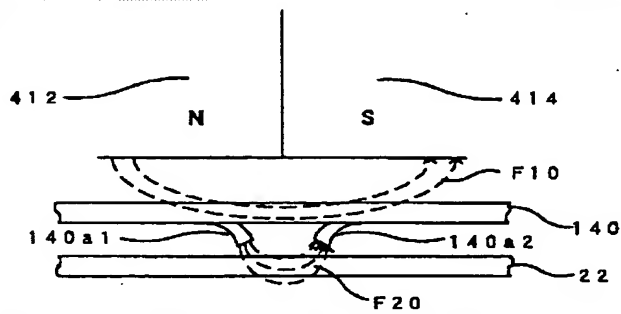
【図3】



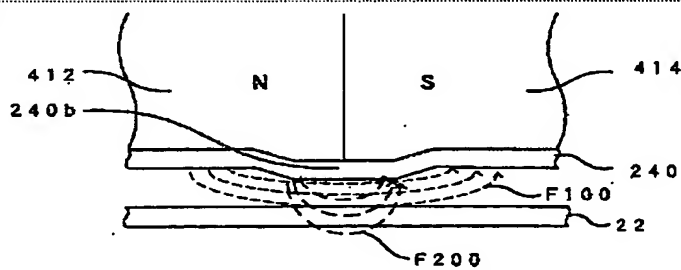
【図4】



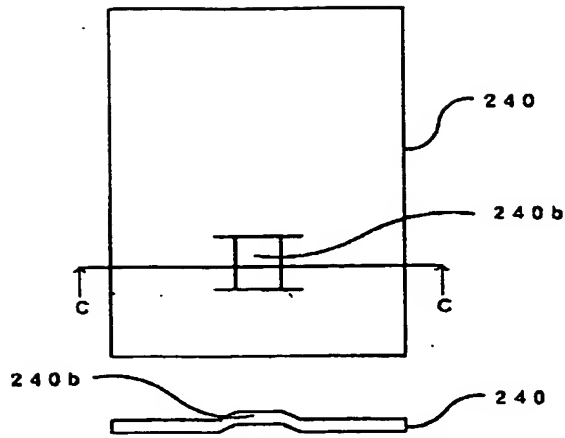
【図5】



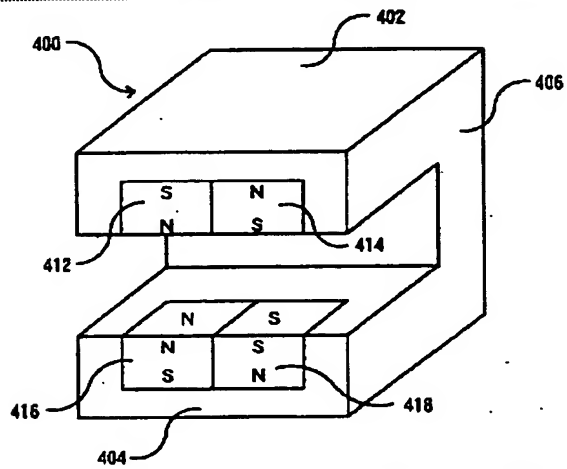
【図7】



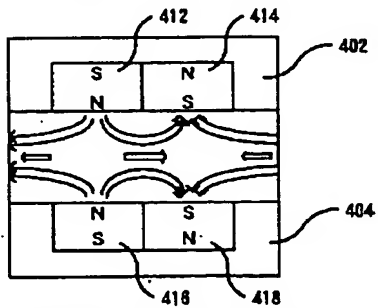
【 図6】



【 図8】



【 図9】



【 図10】

